

## 特集

# 地域で輝く 学生のチカラ

市内には4つの大学があり、約1万人の学生が在籍しています。その中には、学校の外に飛び出して、地域とつながり、活躍する学生がたくさんいます。

今回の特集では、江別で“やってみたい”を実現させる「EBETSUto」<sup>イベント</sup>と、地域と学生をつなぐ「ジモ×ガク」の活動を紹介します。身近にいる学生たちがどんな活動をしているのか、どんなことを考えているのか、のぞいてみましょう。

【詳細】企画課 ☎ 381-1015



北翔大学 1年生  
齋藤 伶菜 さん

北海道情報大学 4年生  
佐藤 大地 さん

“江別と”だったら  
なんでもできる

「EBETSUto（イベント）」は、市内の大学生が「やってみたい」ことを仲間や市民の皆さんと一緒に実現させていくプロジェクトです。

EBETSUtoに参加したことで、学生時代に江別での思い出をいくつも作る事ができたとの声が聞かれています。

令和2年から始まり、現在は23名のメンバーが中心となって活動しています。市内の大学に通う学生であれば、何年生からでも参加することができます。

これまで、ホームページやSNS、ラジオなどで江別の魅力を発信したり、フリーマーケットや演劇イベントの開催、お祭りなどでの縁日ブース、本や音楽など同じ趣味を持った学生や地域の方との交流イベントを行ったりと、幅広く活動しています。

EBETSUtoのホームページやSNSで、活動の様子を発信していますので、ぜひご覧ください。

今回の特集では、江別市出身で今春、卒業を迎える4年生の佐藤大地さんと、入学と同時に江別市に住み始めた大学1年生の齋藤伶菜さんに、EBETSUtoの活動について話を伺いました。

## 活動を始めたきっかけは？

佐藤 3年生の時に、所属していたゼミにイベントで活動していた先輩がいたため、軽い気持ちで参加してみました。最初は、お手伝いをする側として活動に参加していました。4年生になってからは、自分の「やってみよう」と思ったことに取り組んでいます。

齋藤 大学のオリエンテーションで、市の職員の方がイベントとジモ×ガク（5ページ参照）の説明をしていたのを聞いて、イベントを知りました。市外から引越してきたので、地域と関わりを持ちたいと思ったので、せっかくの大学生活なので、何かやってみようと思い、SNSでメッセージを送ってみたのがきっかけです。

## どんな「やってみよう」を実現しましたか？

佐藤 昨年の9月ごろ「壁画アート」をやりたいと思い、SNSで壁を貸してくれる人を募り、「洗車場」の壁を貸していただきました。

私が下絵を描いて、そこにイベントの仲間たちと一緒に色を付けて、完成させました。作成中、道行く近隣住民の方や下校中の中学生たちが興味をもって、声をかけてくれたことが印象に残っています。アートで江別を盛り上げることができたと感じています。今は、1月と2月に開催する「えべつ雪灯小路」というイベントの準備をしています。昨年からはまった、大学や大麻銀座商店街をアイスキャンドル

で照らすというイベントで、フリーマーケットも同時開催します。（※イベントは令和5年12月に実施しました）

仲間集めから準備まで大変ですが、やりがいがあります。

齋藤 私は参加してからまだ1年経っていませんが、これまでお祭りなどで縁日のお手伝いをしたことがありません。大麻銀座商店街の盆踊り大会やコルクえべつの夏祭りなどで、縁日のブースを出店し、くじや型抜きをしていました。子どもはもちろん、大人の方も来てくれて、地域のいろいろな方と関わることができました。今までコロナ禍で体感できなかった、お祭り気分を味わえて、とても楽しく充実した時間でした。

## 活動を通して、気持ちの変化はありましたか？

佐藤 何気なく参加したイベントでしたが、いろいろな経験を通して、相手に喜んでもらえたり、楽しんでもらえたりすることがうれしいと思うようになりました。自分が企画した「壁画アート」で江別を盛り上げられてよかったです。

齋藤 何をしたら楽しんでもらえるかなど考えて企画・運営して、実際に来てくれた方々に喜んでもらえた時に、やってよかったなと思えました。

人見知りなのですが、イベントの仲間や市民の皆さんと関わるうちに、初対面の苦手意識がだんだん少なくなってきたと感じています。

## 今後の「やってみよう」はありますか？

佐藤 大学を卒業するので、イベントのメンバーとしての活動も終わりますが、今後も江別市に住み続ける予定なので、先輩のサポートなど、何かしらの形で関わっていけたらいいと思います。

齋藤 子どもが好きなので、子どもと関わるイベントにもっと参加したいです。また、絵を描くことも好きなので、自分の趣味を生かして、何かできたらいいなと思っています。



壁画アート



縁日の型抜きブース



キックオフパーティー



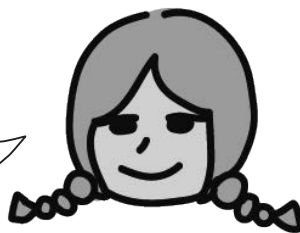
# ▼イベントメンバーの「やってみたい」は？

イベントで活動するメンバーから、やってみたいこと、現在企画していることなどを伺いました。

## 間借りカフェをやりたい！ ほっこり落ち着ける空間を目指して…

今までは他のメンバーの企画でイラストを描くなど、のんびり活動していましたが、「大学生のうちに、もっと自分で何かをやってみたい！」と思うようになりました。

「和」「甘味処」をコンセプトに、地域のお客さんに喜んでもらえるカフェをつくりたいです。



酪農学園大学 3年生  
ニックネーム らこ

## 演劇をやりたい！ 脚本を書いたり演じてみたい…

自分の表現に反応をもらえることが面白いので、演劇イベントなどを開催したいです。本気でやって、表現に誇りを持ちつつも、「演劇をやってみたい」と思った人が気軽に挑戦できる環境をつくりたいと考えています。実はカジュアルに始める事ができ、上手でなくても楽しめることを多くの人に知ってほしいです。



北海道情報大学 1年生  
ニックネーム ごとう

## 市内 4 大学の合同ライブ をやりたい！

大学では軽音サークルに所属しています。これまで、学内の他のサークルや他大学のサークルと合同でライブすることがありましたが、調べた限り、市内の4大学が集まってライブをしたことはなかったので、企画してみたいと思います。



酪農学園大学 3年生  
ニックネーム みなみ

EBETSUto の  
Instagram



## 学生の「やってみたい」を支える EBETSUto コーディネーター

EBETSUto には、学生の活動を手伝ったり、「やってみたい」を実現させるためのアドバイスなどを行っている「コーディネーター」がいます。コーディネーターの中山懸斗さんに話を伺いました。

私は、古着のイベントを江別で開催している中で、EBETSUto のメンバーと知り合い、1年半ほど前からコーディネーターとして活動しています。メンバーと関わる中で、“江別で何かやりたい”という思いを持った学生が多くて驚きました。

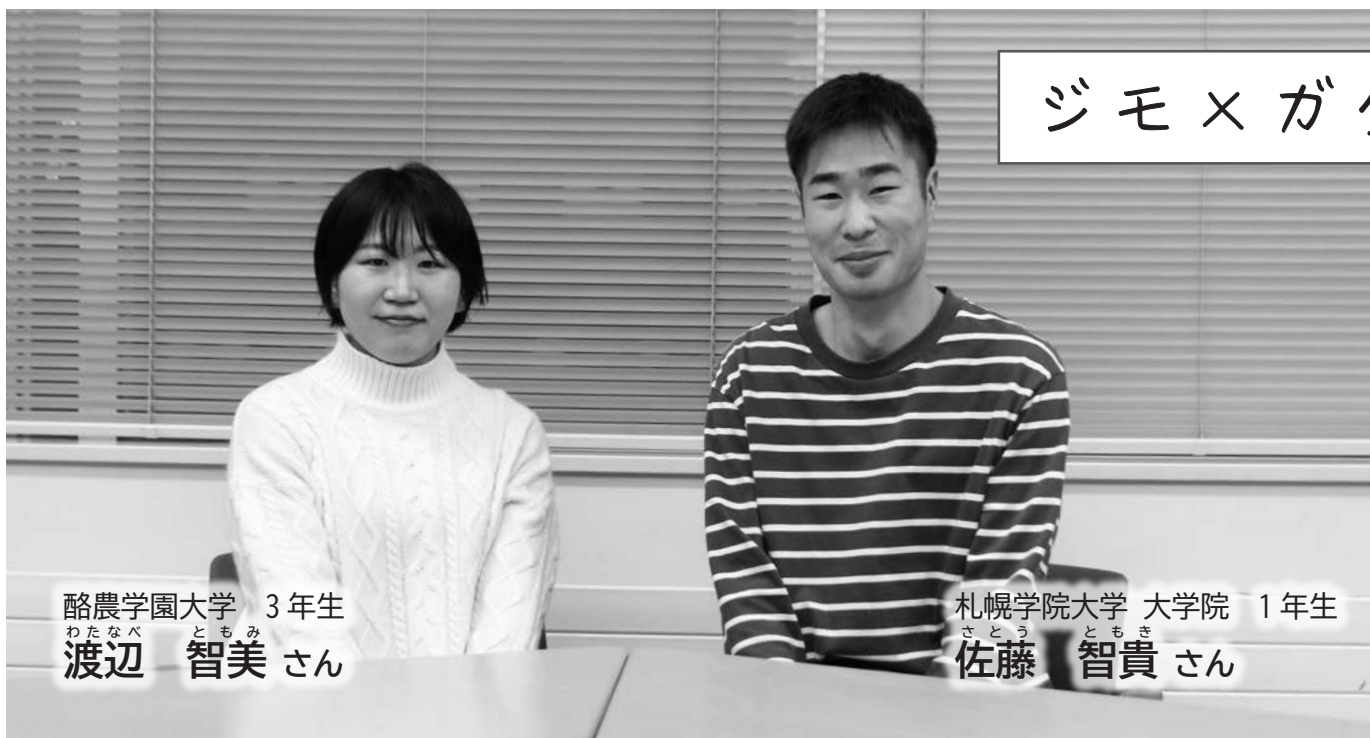
EBETSUto は、「やってみたい」という気持ちがあれば、実現させることができる場所で、コーディネーターの役割は「やってみたい」気持ちを具現化させるお手伝いをする事です。また、学生の「やってみたい」を実現させることで、結果として地域と学生をつながられることが EBETSUto の活動の面白いところです。壁画アートやフリーマーケットなど、さまざまな活動が地域の方から喜ばれ、地域と学生がつながっていていると感じています。

また、EBETSUto を卒業したメンバーがコーディネーターとして関わる事例もあり、次の世代につながっていく活動であると思います。



EBETSUto コーディネーター  
なかやま けんと  
中山 懸斗 さん

# ジモ×ガク



酪農学園大学 3年生  
わたなべ ともしみ  
**渡辺 智美**さん

札幌学院大学 大学院 1年生  
さとう ともしき  
**佐藤 智貴**さん

## 大学生が地域・地元で 学び、活躍する

「ジモ×ガク」は、市内の大学生が、ボランティア活動や企業訪問などに参加し、多様な立場の方とのコミュニケーションや地域との関わりなどを通して、さまざまな経験が得られるように支援している事業です。

工場見学や市内探索、ワークショップの参加、スノーフェスティバルなどのイベントの運営補助、小中学生の学習サポートなど、幅広い活動があります。



▲ジモ×ガクHP

これまでに10回以上ジモ×ガクの活動に参加しているという、佐藤智貴さんと渡辺智美さんから話を伺いました。

### 参加したきっかけは？

佐藤 コロナ禍で地域や人の関わりが少なかったのも、何か地域と関わることがしたいと思い、インターネットで検索し、ジモ×ガクを見つけ

て参加しました。

渡辺 私は友達に誘われて、ブックストリートのお手伝いに参加しました。とても楽しかったのも、ほかに、環境広場や小学生の牧場体験のお手伝い、中学生の学習サポートなど、月1回くらいのペースで参加しています。

### ジモ×ガクの魅力は？

佐藤 普段関わることの少ない他の大学の学生と交流できることがジモ×ガクの魅力です。同じ志を持った人と話をしたり、勉強したりすることができると、また、参加したワークショップでは、学生以外にもさまざまな立場の人と一緒に、江別や地域のことを考える機会になりました。

もともと海外に興味があったので、「世界市民の集い」の運営補助に参加しました。市内在住の海外からの移住者と関わることができると、貴重な機会となりました。ジモ×ガクは自分の興味がある内容を選べるのも魅力の一つです。

渡辺 ジモ×ガクの一番の魅力は、人の輪が広がることです。私は、絵を描くことが好きで、ジモ×ガクを通して出会った人から、看板を描いてほしいと依頼されたり、美術部の活動と地域をつなげることでできたりと、人の輪が広がり、活動も増えました。

### 参加した後、意識の変化はありましたか？

佐藤 参加する前も、海外に関する仕事やサービス業に興味がありました。ジモ×ガクに参加し、地域と関わる中で、海外からの移住者と地域の関わり方などに興味を持ちました。こういった経験を通して、地域のために働きたいと考えるようになりました。

渡辺 私は獣医師を目指している、ジモ×ガクに参加してからは、自分の知識を生かしながら、地域に役立つことがしたいと考えるようになりました。

活動の中で「私もこんな風になりたい」と思える大人の方と出会うことができ、ただ働くだけではなく、地域猫のことや飼主同士の交流の場を企画するといった将来像を持つようになりました。